

祖父母との同居が男性の育児参加と次子出生との関係に与える影響

The influence of co-residence with grandparents on the relationship between men's participation in childcare and parity progression

加藤承彦（国立成育医療研究センター）・福田節也（国立社会保障・人口問題研究所）

Tsuguhiko Kato (National Center for Child Health & Development)

Setsuya Fukuda (National Institute of Population and Social Security Research)

Kato-tg@ncchd.go.jp

【背景と目的】

現在、日本は長年にわたる低出生により人口減少のフェーズに入っており、今後、人口減少の負の影響が社会の様々な側面（産業・社会保障・福祉など）において顕在化すると予想される。政府は、出生率回復のための一策として、三世代同居支援を挙げている。しかし、祖父母との同居が実際に出生率の上昇（例えば、第二子以降の出生）に繋がるかは定かではない。我々は、21世紀出生児縦断調査を用いた研究で、男性の積極的な育児参加が第二子・第三子の出生を促す可能性を明らかにした。この知見を踏まえて、本研究では、父方もしくは母方の祖父母との同居が男性の育児参加と次子の出生との関係にどのような影響を与えるのかを検証した。

【先行研究】

男性の育児参加が出生に与える影響に関して、21世紀成年者縦断調査を用いた永瀬らの研究（2017）および21世紀出生児縦断調査を用いた我々の研究（2018）で、男性の積極的な育児参加は、次子の出生にとって正の影響があることを明らかになった。また、祖父母との同居が出生行動に与える影響に関して海外では近年、祖父母からの支援が出生行動や出生意欲にどのような影響を与えるのかを検証した研究が進みつつあるが、明確な結論は得られていない（例、Tanskanen & Rotkirch, 2014; Schaffnit & Sear, 2017）。日本では、いくつかの研究で祖父母との同居が次子の出生を促進する可能性が示唆されている（例、福田, 2007）。しかし、男性の育児参加と祖父母との同居との交互作用に関しては、我々の知る限り知見が殆ど無い。

【方法】

本研究では、21世紀出生児縦断調査を用いて、2001年の1月と7月のある週に生まれた全国の子ども約5万人を対象とし、第一子が生まれた家庭および第二子が生まれた家庭に分けて解析を行った。主な説明変数として、児が6ヶ月時点での1) 父親の育児参加の度合いと2) 祖父母との同居の有無を用いた。アウトカムとして、第一子または第二子出生の5年後における次子の出生の有無を用いた。男性の育児参加の度合いは、点数によって3

群に分けた。祖父母との同居は、同居なし・父方祖父母との同居・母方祖父母との同居の3群に分けた。解析は、Logistic 回帰分析を用いて二つの説明変数の影響を検証した後、祖父母との同居により層別し、男性の育児参加の影響の変化を検証した。交絡要因として、親の学歴、世帯収入、父親の労働時間、母親の育児不安などを調整した。

【結果】

男性の育児参加が最も少ない群と比較した場合に、男性の積極的な育児参加は、第二子出生、または第三子出生の有無において、有意な正の影響が見られた。一方で、祖父母との同居に関しては、第二子から第三子への出生においてのみ、同居なし群と比較した場合に父方の祖父母との同居群に正の影響が見られた（下記、上の表）。

祖父母との同居の3群で層別解析を行った結果、第一子から第二子の場合、どの群でも男性の育児参加が次子の出生に与える正の影響に変化は見られなかった。一方、第二子から第三子の場合、同居なし群では、男性の積極的な育児参加には正の影響が見られたが、父方の祖父母との同居群では、男性の育児参加の度合いと次子の出生には関連が見られなかった（下記、下の表）。

Table. Adjusted Odds Ratios with 95% Confidence Intervals for the Associations of Men's Participation in Childcare and Co-residence with Parity Progression at Wave 5 among Couples with Parity One and Parity Two ($n_{\text{parity1}}=16,524$; $n_{\text{parity2}}=12,237$).

	Parity 1		Parity 2	
	OR [95% CI]		OR [95% CI]	
Childcare				
0-6 points	Ref		Ref	
7-12	1.37 [1.21,1.54]		1.14 [0.99,1.32]	
13-18	1.45 [1.27,1.65]		1.25 [1.05,1.48]	
Co-residence with grandparents				
No	Ref		Ref	
Father-side	1.08 [0.97,1.20]		1.20 [1.06,1.37]	
Mother-side	0.81 [0.70,0.94]		0.89 [0.73,1.09]	

Table. Adjusted Odds Ratios with 95% Confidence Intervals for the Associations of Men's Participation in Childcare with Parity Progression at Wave 5 among Couples with Parity Two ($n_{\text{no}}=9,672$; $n_{\text{father}}=1,853$).

	No co-residence		Father-side	
	OR [95% CI]		OR [95% CI]	
Childcare				
0-6 points	Ref		Ref	
7-12	1.17 [0.99,1.38]		1.09 [0.80,1.49]	
13-18	1.29 [1.06,1.57]		1.01 [0.69,1.50]	

【結論】

本研究の分析の結果、第一子から第二子の場合において、祖父母との同居の有無によって男性の積極的な育児参加の正の影響に変化は見られなかった。一方、第二子から第三子の場合、父方の祖父母との同居群では、男性の育児参加と次子の出生に関連が見られなくなった。しかし、祖父母との同居には様々な先行要因が関連していると考えられ、この分析では十分にそれらの要因を考慮できていないとは言えないので、今後、分析をより精緻化していく必要がある。